

## ミツカン水の文化センター

第23回(平成29年度)

## 「水にかかわる生活意識調査」結果レポート

＝下水道の環境配慮意識に変化？ 天ぶら油を流さない配慮をしている人が激減！＝

ミツカン水の文化センター(事務局:東京都中央区新川1-22-15茅場町中埜ビル 株式会社Mizkan Partners 広報部内)では、本年6月中旬に、東京圏、大阪圏、中京圏の在住者1,500名を対象に、平成29年度「水にかかわる生活意識調査」を実施し、このほど集計結果をまとめました。

今回は、上下水道をはじめとしたインフラ老朽化が進行している昨今の状況を踏まえ、下水道の認知等を探るための設問や、訪日外国人観光客が年々増加していることにちなみ、「水と文化」に関する新たな設問を追加して調査を実施しました。加えて、当センターのアドバイザーであり、東京大学 総長特別参与・生産技術研究所教授の沖 大幹先生に、調査結果を受けての解説をいただきました。

「水にかかわる生活意識調査」は、センター設立に先立ち、1995年に第1回目を実施して以来、ほぼ同じ内容で毎年6月に行っており、今回が23回目となります。日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化などについてアンケート形式で調べるという手法により、生活者の実感としての水の諸相を明らかにしようというものです。[今回の調査データおよび過去(第1回～22回)の集計概要は、別途HPで紹介しています。]

## 《調査結果》

## 【1】下水道への環境配慮の意識に変化

…天ぶら油を流さない配慮をしている人が半数割れ  
全体的にどの配慮項目も数値が低下

## 【2】水道水への評価が大きく低下

…10点満点で採点した回答の、全体平均が7点台を  
大幅に割り込み、6.58点に  
…相変わらず「不満なし」と回答する人が一番多いが、  
具体的な不満点の1位は「水道料金」

## 【3】今、最もみずみずしいと感じる有名人は？

…1位は、女優の広瀬すず  
…男性トップは、将棋棋士の藤井聡太

## 〔解説〕 Oki's View

…沖大幹先生による解説

〔この件に関するお問い合わせ先〕

ミツカン水の文化センター 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15茅場町中埜ビル  
株式会社Mizkan Partners 広報部内

TEL.03-3555-2607 FAX.03-3297-8578 <http://www.mizu.gr.jp>

## 《結果の抜粋と掲載ページ》

<b>■調査概要</b>		2ページ
<b>■日常の水意識</b>		
◇“節水していない人”が5割台で推移		3ページ
◇節水・再利用の方法の1位は「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」		3ページ
◎沖大幹先生による解説～Oki's View～ ①		4ページ
◇下水道への環境配慮、全体的にどの配慮項目も数値が低下…トピック【1】		4ページ
◎沖大幹先生による解説～Oki's View～ ②		4ページ
◇下水道に関する認知、約5人に1人が「あてはまるものがない」		5ページ
<b>■水と生活・文化</b>		
◇水と関わりの深い日本の文化、外国人に紹介したい日本の水文化、ともに「水道インフラ」が3年連続1位に		5ページ
◇日本のトイレで外国人に紹介したいこと「温水洗浄便座機能」が断然のトップ		6ページ
◇日本の温泉で外国人に紹介したいこと“リラックス”や“癒し”などの項目が上位		6ページ
◇好きな水辺の1位は「海の砂浜」		6ページ
◇水辺でしたいこと、近年の傾向は“アクティブ”より“癒し”？		6ページ
◇みずみずしいと感じる有名人の1位は広瀬すず。男性トップは藤井聡太…トピック【3】		7ページ
◎沖大幹先生による解説～Oki's View～ ③		8ページ
<b>■水と災害</b>		
◇不安に感じている災害「台風」が全体の1位に。“最も”不安に感じているのは「地震」		8ページ
◎沖大幹先生による解説～Oki's View～ ④		9ページ
◇災害時の水の備え「ミネラルウォーターを買い置く」が昨年同様1位		10ページ
東京圏での「何もしていない」人は増加		
◇ミネラルウォーターの買い置き量、昨年に続き「2～3日」が最多、「1週間」以上が約3割		10ページ
◎沖大幹先生による解説～Oki's View～ ⑤		10ページ
<b>■水道水に関する意識</b>		
◇水道水の評価が、7点台を大幅に割り込み6.58点に…トピック【2】		11ページ
◇飲用としての水道水の評価も昨年から大幅低下の6.26点		11ページ
◇水道水への不満は相変わらず「不満なし」が一番多いが、具体的な不満点の1位は「水道料金」…トピック【2】		12ページ
◎沖大幹先生による解説～Oki's View～ ⑥		12ページ

### 【調査概要】

#### 第23回(平成29年度)「水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 1,500票
- ◆調査対象者 : 東京圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 平成29年6月8日(木)～6月13日(火)
- ◆回収数(人) :

	東京圏		大阪圏		中京圏		合計		小計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
30代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
40代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
50代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
60代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
合計	250	250	250	250	250	250	750	750	1,500
	500		500		500				

## 日常の水意識

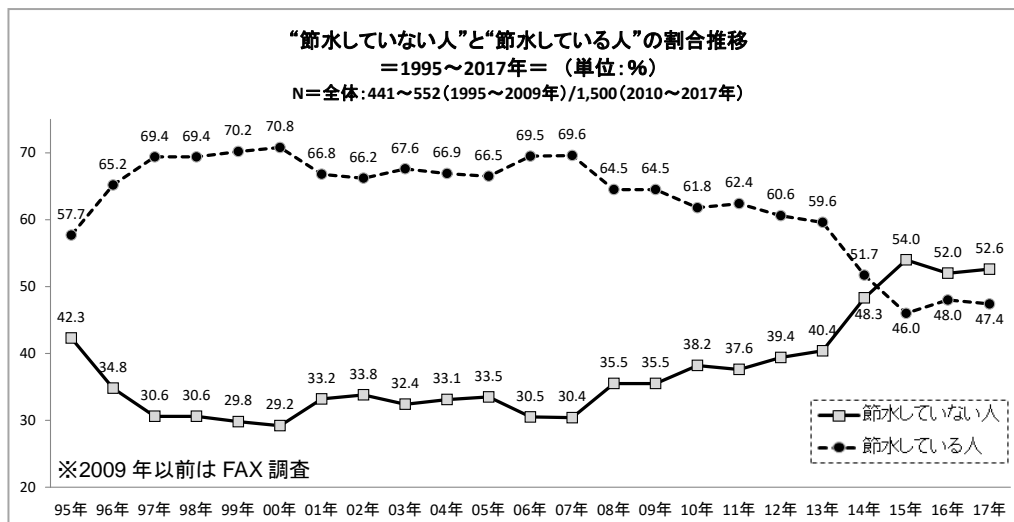
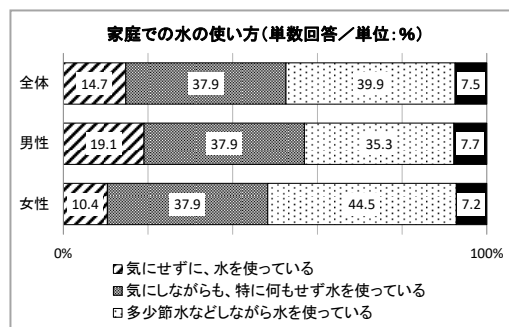
当センターでは、本調査を開始した1995年以降、日常の水意識として「家庭における水の使い方」の実態を経年で追っています。この設問における“節水していない人”（「節水・再利用は気にせず水を使っている」と「節水・再利用を気にしながらも、何もせず水を使っている」の合計）の割合は、1995年から2013年までは30～40%台前半で推移していましたが、近年は5割を超え、節水意識の低下が顕著に表れています。このような状況の中、数値の動向を見るべく、今年も調査を行いました。

また、下水道施設をはじめとしたインフラの老朽化が急速に進み、東京都では下水道事業への関心を喚起するためのプランを策定するなど、その対策への取り組みが始まっていることを踏まえ、今回は下水道に関する認知や実態を探るための調査も実施しました。

### Q.水の使い方は？（4択）

#### ◇“節水していない人”が5割台で推移

結果は、「節水・再利用のことは気にせず水を使っている」（14.7%）が昨年から0.8ポイント減少したものの、「節水・再利用は気にしながらも、特に何もせず水を使っている」人（37.9%）が昨年から1.4ポイント増加し、この両者を合計した“節水していない人”は52.6%（昨年比0.6ポイント増）とほぼ横ばいで、依然として5割を超える結果となりました。

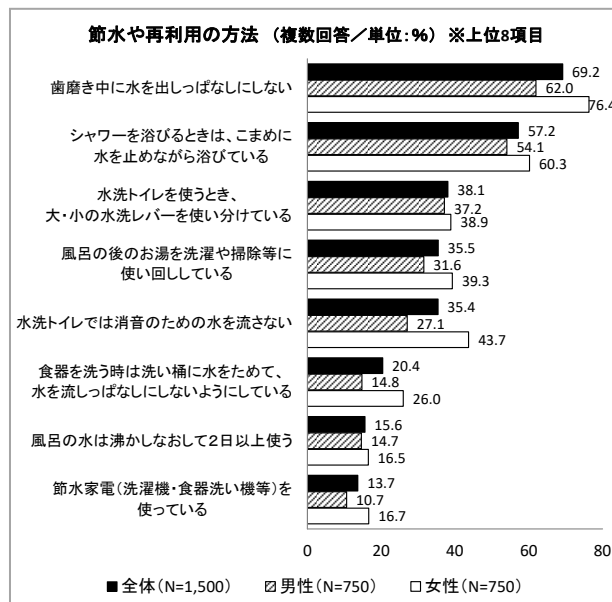


### Q.節水や再利用の方法は？（13択＋その他＋特にやっていない）

#### ◇1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」、2位「シャワーの時にこまめに水を止める」、3位「水洗トイレの大小レバーを使い分ける」も、男女別の数値に差異

具体的な「節水や再利用の方法」については、1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」（69.2%）、2位「シャワーの時にこまめに水を止める」（57.2%）、3位「水洗トイレの大小レバーを使い分ける」（38.1%）となり、4位「風呂の湯を洗濯や掃除に使い回す」（35.5%）、5位「水洗トイレで消音のための水を流さない」（35.4%）と続きました。

男女別では、上位5項目は男女とも全体と同様でしたが、それぞれの数値に目を向けると、「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」は男性62.0%、女性76.4%で14.4ポイント差、「水洗トイレで消音のための水を流さない」は男性27.1%、女性43.7%で16.6ポイントの開きがあるなど、両者の取り組み率に違いが見られました。



## 沖大幹先生による解説 ～Oki's View～ ①

### 【節水意識】

「歯磨き中に水を出しっぱなしにしている」人が約3割もいる。もしかして歯磨きにほとんど時間をかけていないのだろうか。歯の健康という観点からも、水を出しっぱなしにしていなくても気にならないほど簡潔な歯磨きは見直した方がいいのではないだろうか。

「水洗トイレで消音のために水を流さない」と答えたのは男性27%、女性44%(3頁・下図参照)。残りの男性73%、女性56%は流しているのだろうか？なぜ男性の方が流さない、と答えた数が少ないのだろうか？もしかして、男性の方が恥ずかしがり屋なのか？ちなみに、「外国人に紹介したい日本のトイレ」の質問で流水音の擬音装置機能と答えたのは男性11%女性29%(6頁・左図参照)なので、女性が気にしていないわけでもなさそうだ。

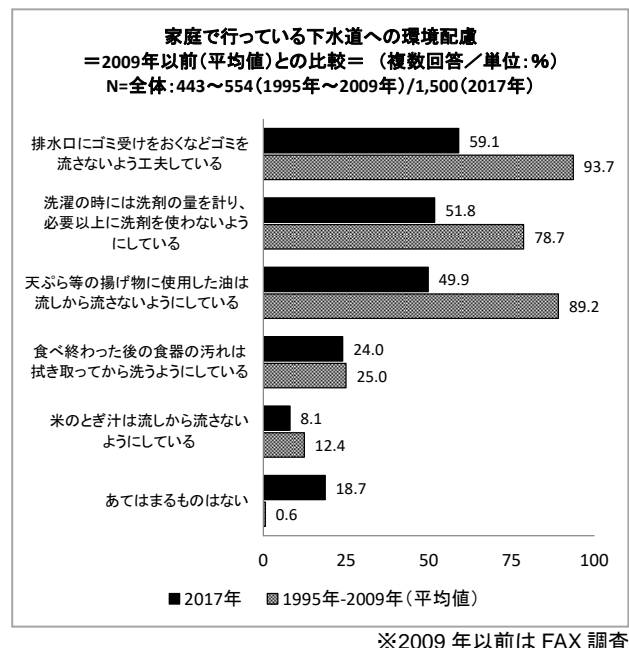
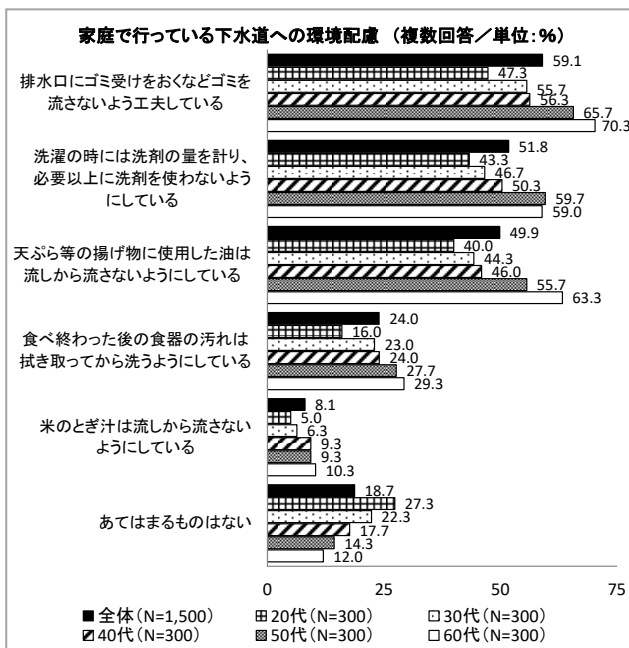
節水家電を使っていると答えた方は14%(3頁・下図参照)。しかし、洗濯機はどれを買っても以前に比べると圧倒的に必要水量が減っている。ご自身が使っている家電が節水家電であるという点に気づいていない、という方も多いのではないだろうか。自覚なく節水が進むというのは悪いことではないだろう。

## Q.自宅での下水道への環境配慮は？ (5択+あてはまるものはない)

### ◇2009年以前との比較で、全体的にどの配慮項目も数値が低下

下水道への環境配慮に関して予め項目を提示し、家庭で取り組んでいる事柄を聞いたところ、①「排水口にゴミを受けおこなどゴミを流さないよう工夫している」(59.1%)が最も多く、②「洗濯時に、必要以上に洗剤を使わないようにしている」(51.8%)、③「天ぷら等の揚げ物に使用した油は流しから流さないようにしている」(49.9%)と続き、全体の約2割が「あてはまるものはない」(18.7%)と回答しました。

ちなみに、本設問と同様の調査を行った1995年から2009年まで15年間の平均値は、上記①が93.7%、②78.7%、③89.2%と、調査手法の違い(2009年まではFAX調査)はあるものの、約10年で数値が大きく変化しました。この変化が経年によるものなのか、当センターとしては来年以降の推移にも注目していきたいところです。



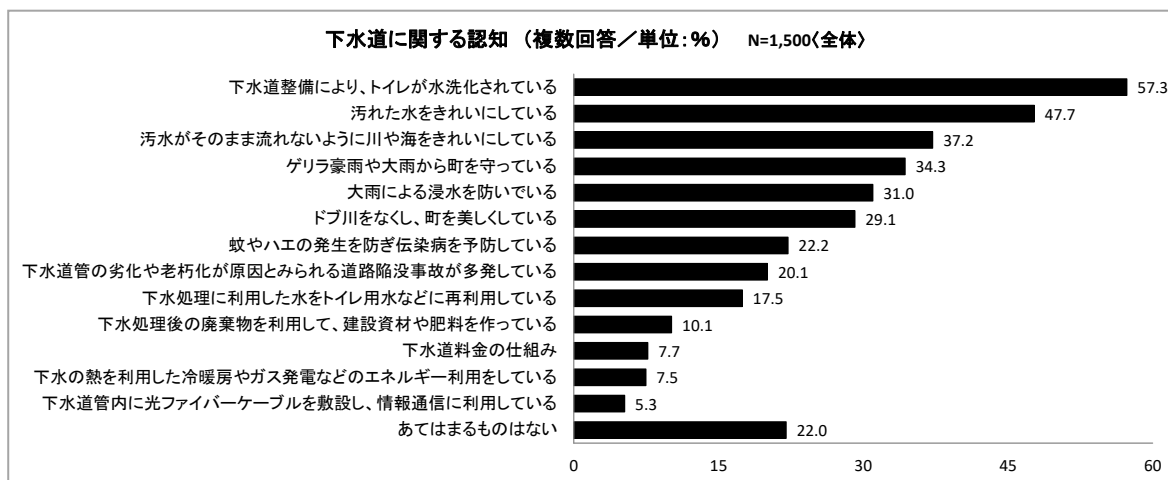
## 沖大幹先生による解説 ～Oki's View～ ②

### 【水質保全への配慮】

ショックである。「排水口にゴミや天ぷら油などを流さない」というのは家事の基本かと思っていたが、20代の半数以上が実践していないのだろうか。下水道が完備され「どうせきちんと処理されるだろうから」と思っているのかもしれないし、 DISPOSER が普及しているからかもしれない。生活排水で汚れた川が少なくなって、危機感が乏しいということも影響しているのかもしれない。

## Q.下水道に関して知っていることは？（13択＋あてはまるものはない）

◇約5人に1人が「あてはまるものがない」と回答。「下水道料金の仕組み」を知っている人は1割未満  
次に今回初めて、下水道の役割などに関する事柄について、予め項目を提示した上で知っていることを尋ねたところ、1位「下水道整備により、トイレが水洗化されている」(57.3%)、2位「汚れた水をきれいにしていく」(47.7%)、3位「汚水がそのまま流れないように川や海をきれいにしていく」(37.2%)となりました。なお、「下水道料金の仕組み」(7.7%)については1割に届かず、「あてはまるものはない」(22.0%)が全体の2割を超える結果となりました。



## 水と生活・文化

東京オリンピック・パラリンピック開催を2020年に控え、訪日外国人観光客が年々増え続けており、昨今のインバウンド市場では、“モノ消費”のみならず“コト消費”にも注目が集まっています。当センターでは2015年より、「水と関わりの深い日本の文化」の調査を行ってまいりましたが、今年はこれに加え、多くの訪日外国人が驚嘆するという日本の「トイレ」と「温泉」について、外国人に紹介したい誇れることを新たに調査しました。また、「最もみずみずしいと感じる有名人」についても、10年ぶりの調査を実施しました。

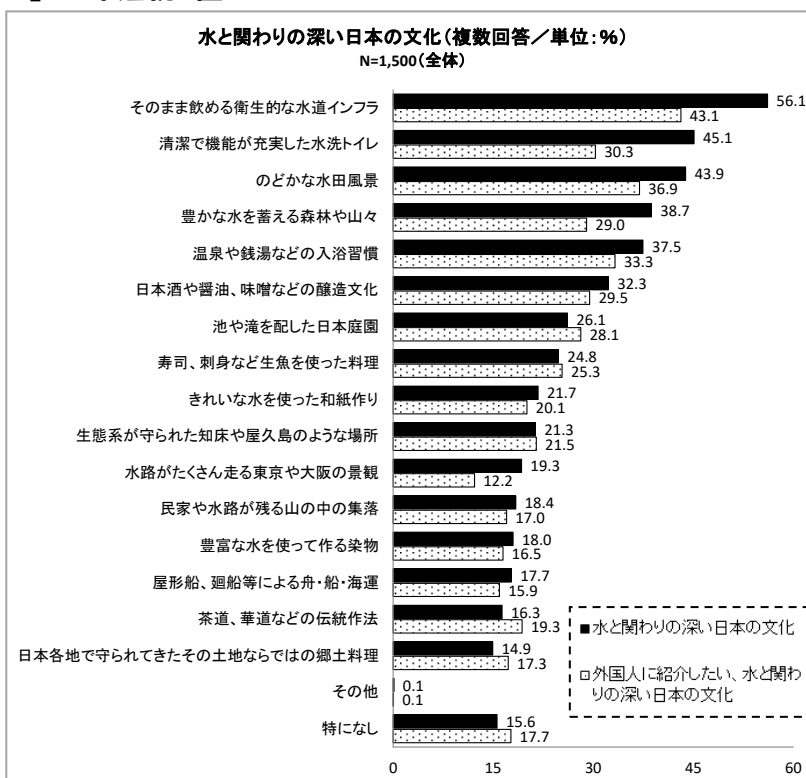
### Q.水と関わりの深い日本の文化は？（16択＋その他＋特になし）

### Q.外国人に紹介したい「水と関わりの深い日本の文化」は？（16択＋その他＋特になし）

◇ともに、「そのまま飲める水道インフラ」が3年連続1位

①「水と関わりの深い日本の文化」と②「外国人に紹介したい水と関わりの深い日本の文化」、それぞれトップは「そのまま飲める水道インフラ」(56.1%、43.1%)で、ともに2015年の調査開始以降、3年連続の1位となりました。

なお、昨年選択肢として新たに追加した「清潔で機能が充実した水洗トイレ」は、上記①では昨年比5.6ポイント増の45.1%で2位となり(昨年は39.5%で4位)、②では3.2ポイント増の30.3%で4位でした(昨年は27.1%で6位)。



## Q.日本のトイレで外国人に紹介したい誇れることは？（12択＋その他＋ない）

### ◇「温水洗浄便座機能」が断然のトップ

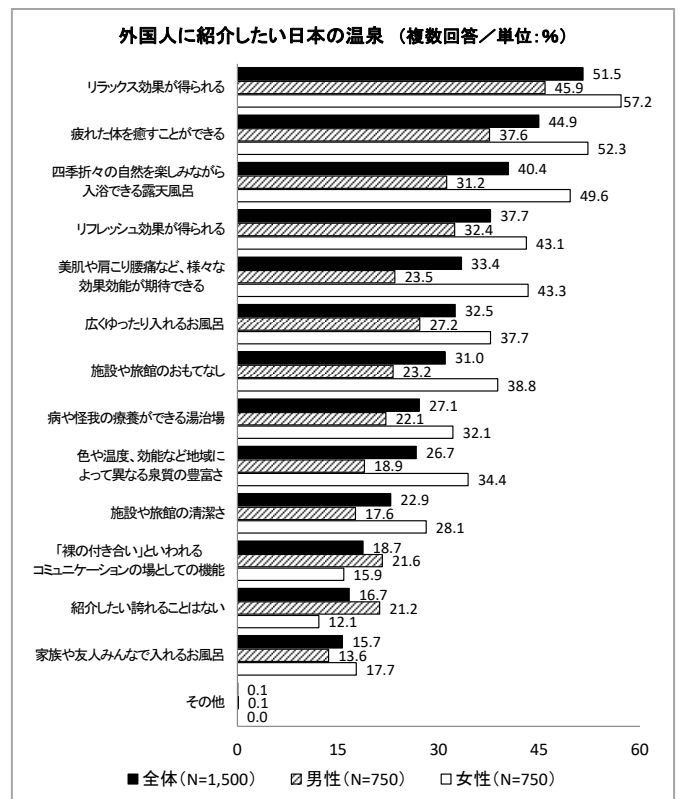
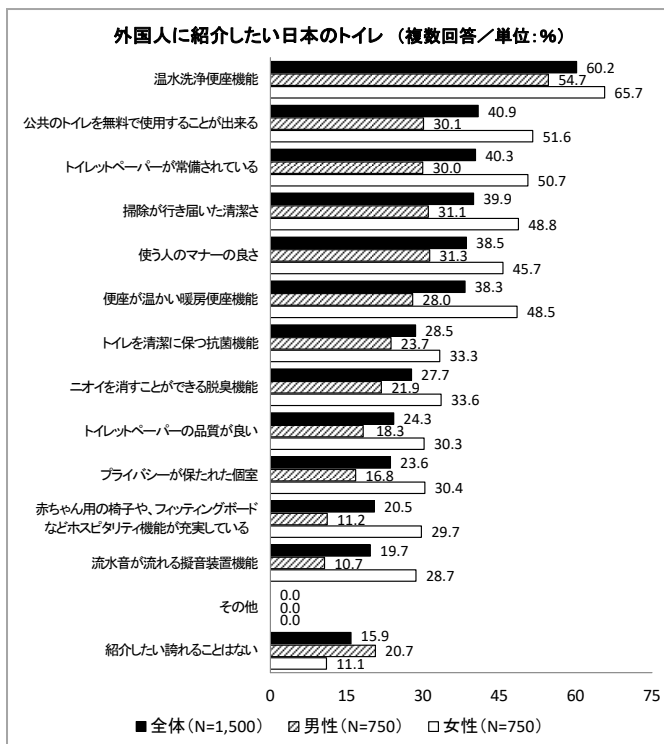
日本のトイレで外国人に紹介したい誇れることについて、選択肢を提示して聞いたところ、「温水洗浄便座機能」(60.2%)が2位以下を大きく離して断然のトップとなり、次いで、2位「公共のトイレを無料で使用できる」(40.9%)、3位「トイレットペーパーが常備されている」(40.3%)、4位「掃除が行き届いた清潔さ」(39.9%)、5位「使う人のマナーの良さ」(38.5%)と、2位以下の上位項目は僅差でした。

## Q.日本の温泉で外国人に紹介したい誇れることは？（12択＋その他＋ない）

### ◇「リラックス」や「リフレッシュ」、「癒し」「自然」「美容・健康」などの項目が上位を占める

次に、訪日観光客に人気のスポットである温泉について、外国人に紹介したい誇れることを聞いたところ、トップ5は、1位「リラックス効果が得られる」(51.5%)、2位「疲れた体を癒すことができる」(44.9%)、3位「四季折々の自然を楽しみながら入浴できる露天風呂」(40.4%)、4位「リフレッシュ効果が得られる」(37.7%)、5位「美肌など様々な効果効能が期待できる」(33.4%)でした。

男女別では、全体的に女性の数値が男性に比べ高い傾向にある中、「『裸の付き合い』といわれるコミュニケーションの場としての機能」は男性が6ポイント近く上回りました(男性21.6%、女性15.9%)。



## Q.好きな水辺は？（16択＋その他）

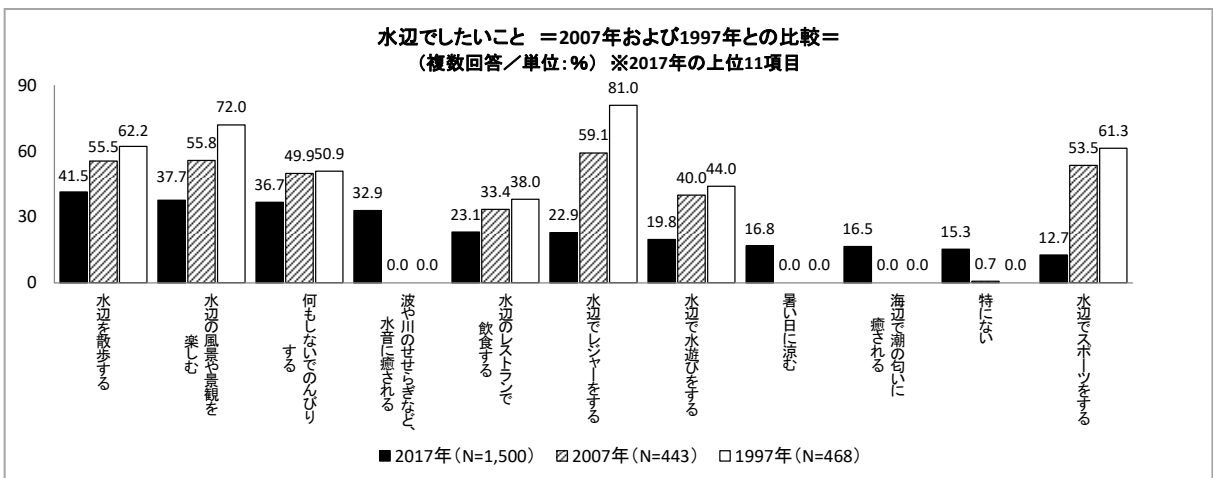
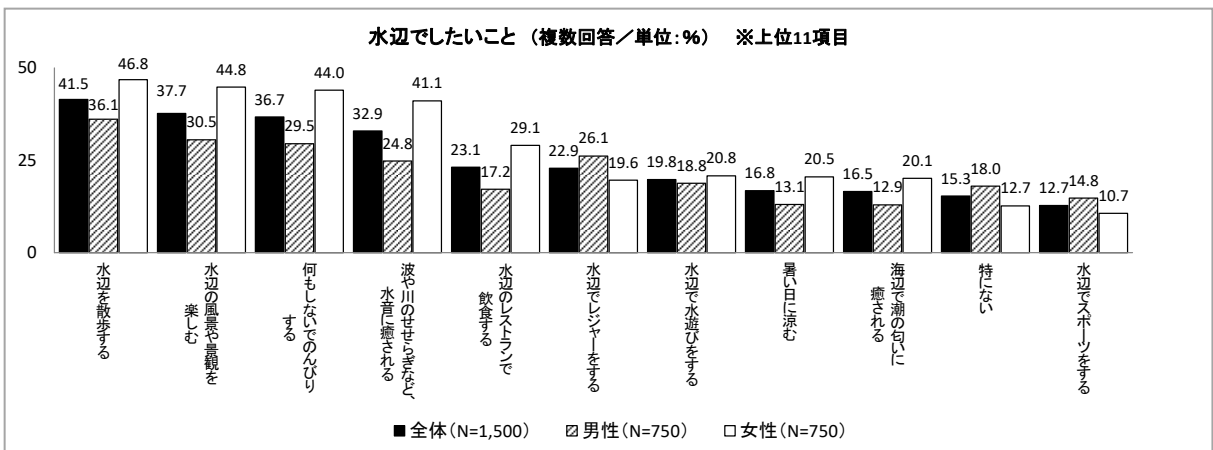
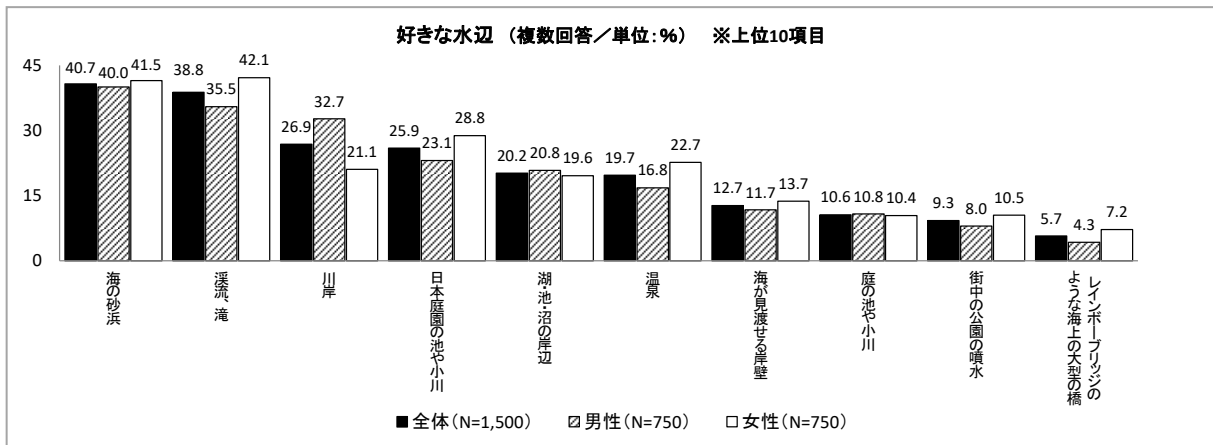
## Q.水辺でしたいことは？（12択＋その他＋特にない）

### ◇好きな水辺の1位は「海の砂浜」。「温泉」の数値が減少

### ◇水辺でしたいことの近年の傾向は、「アクティブ」より「癒し」？

「好きな水辺」と「水辺でしたいこと」について、2015年以来的の調査を行ったところ、「好きな水辺」のトップは「海の砂浜」(40.7%)となり、2位「溪流・滝」(38.8%)、3位「川岸」(26.9%)と続きました。2015年の結果と比較すると、2015年は31.1%で3位だった「温泉」が、今回は11.4ポイント減の19.7%で6位になるなど、一部に変化が見られました。

「水辺でしたいこと」については、1位「水辺を散歩する」(41.5%)、2位「水辺の風景や景観を楽しむ」(37.7%)、3位「何もしないでのんびりする」(36.7%)、4位「波や川のせせらぎなどの水音に癒される」(32.9%)と、上位項目は2015年と同様でしたが、10年前の2007年および、20年前の1997年と比較してみると、今回22.9%(6位)の「水辺でレジャーをする」が、2007年は59.1%、1997年は81.0%(ともに1位)、12.7%(11位)の「水辺でスポーツをする」がそれぞれ53.5%、61.3%(ともに4位)と、かつては上位に入っていた「アクティブ」な項目が、順位・数値ともに下げました。近年は、より水辺に「癒し」を求める傾向にあるのかもしれません。



※1997年および2007年はFAX調査

※「波や川のせせらぎなど、水音に癒される」「暑い日に涼む」「海辺で潮の匂いに癒される」は、2017年のみの選択肢

## Q.みずみずしいと感じる有名人は？（自由回答）

### ◇1位は広瀬すず。藤井聡太が男性トップの6位

「今、最もみずみずしいと感じる有名人」を自由回答で尋ねたところ、「広瀬すず」がトップとなり、2位「有村架純」、3位「新垣結衣」、4位「綾瀬はるか」、5位「石原さとみ」、6位「土屋太鳳」と、1位から6位までを女性（いずれも女優）が占めました。男性では、史上最年少（14歳2か月）でプロ入りを果たし、デビューから無敗のまま歴代最多連勝記録（29連勝）を達成した将棋棋士の「藤井聡太」が6位タイで男性トップとなりました。この結果を見ると、「みずみずしい」は“匂”ということなのでしょう。

ちなみに、同様の調査を行った2007年と1996年の1位は、それぞれ「長澤まさみ」と「西田ひかる」でした。

## 今、最もみずみずしいと感じる有名人トップ 10

順位	名 前	割合 (%)
1	広瀬すず	7.27
2	有村架純	4.93
3	新垣結衣	3.27
4	綾瀬はるか	3.00
5	石原さとみ	2.20
6	土屋太鳳	1.53
	藤井聡太	
8	波留	1.47
9	福士蒼汰	1.20
10	北川景子	1.13
	菅田将暉	

### 【ご参考】過去調査時の結果

(2007年調査)			(1996年調査)		
順位	名 前	割合 (%)	順位	名 前	割合 (%)
1	長澤まさみ	15.8	1	西田ひかる	8.1
2	斎藤佑樹	7.8	2	山口智子	6.8
3	藤原紀香	7.3	3	イ子ロー	4.8
4	上戸彩	5.7		安室奈美恵	
5	石川遼	4.2	5	観月ありさ	4.2
6	浅田真央	3.4	6	鶴田真由	2.9
7	松嶋菜々子	2.6	7	松嶋菜々子	2.6
8	成海璃子	2.3	8	内田有紀	2.4
9	吉永小百合	1.8		木村拓哉	
	仲間由紀恵		10	ともさかりえ	2.0
	蛭原友里	瀬戸朝香			

## 沖大幹先生による解説 ~Oki's View~ ③

### 【好きな水辺&水辺でしたいこと】

「海の砂浜」は男女差なく特に若い世代に人気であるのに対し、「川岸」は男性33%、女性21%(7頁・上図参照)と男性が好んでいる。水辺でしたいことについて、「水辺を散歩する」が男性36%で女性47%、「水辺でレジャーをする」が男性26%、女性20%という結果と合わせると、女性は砂浜を歩きたがっているのに対し、男性は水辺でレジャーをしたがっているのではないかと推測される。「水音に癒される」に至っては男性25%女性41%と大差がついており(7頁・中図参照)、男性は水辺で癒されたい女性の気持ちを汲んで、水辺での過ごし方を考えたほうがよいのかもしれない。

### 【みずみずしい有名人】

並みいる女性陣に混じって将棋棋士の藤井聡太氏がトップ10に入っている。「若くて活躍しているとみずみずしいと感じてもらえるのか」というのは年寄りのひがみか。

基本的には連続ドラマやCMで目にする機会が多いタレントが上位になっているようにも見え、「みずみずしいと感じる」でなくとも「好感度が高い」や「応援したい」、あるいは単に「知っている」でもほぼ同じ結果になるのではないか、という気もする。

## 水と災害

**Q.不安に感じている災害は？** (22択+その他+特に不安を感じたことはない)

**Q.最も不安に感じている災害は？** (22択+その他)

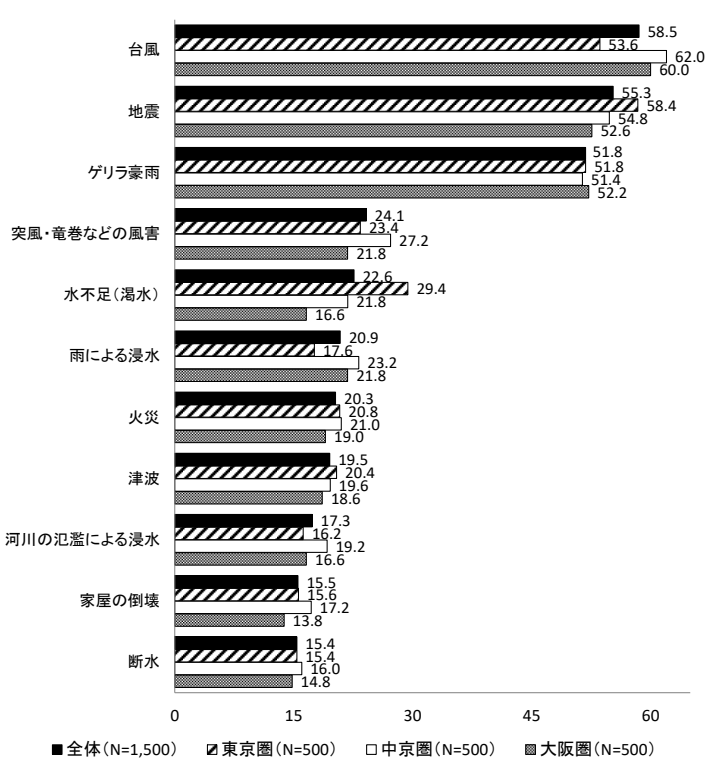
◇「台風」が全体の1位に。但し、“最も”不安に感じているのは「地震」

不安に感じている災害を聞いたところ、「台風」(58.5%)が1位となり、昨年トップの「地震」(55.3%)が2位で、以下、3位「ゲリラ豪雨」(51.8%)、4位「突風・竜巻など」(24.1%)、5位「水不足」(22.6%)と続きました。居住地別にみると、中京圏と大阪圏は、ともに「台風」が6割超(中京62.0%、大阪60.0%)で1位でしたが、東京圏の1位は「地震」(58.4%)となり、「台風」(53.6%)は2位でした。

上記「不安に感じている災害」の設問と同様の選択肢で、「最も不安に感じている災害」を1つ選んでもらったところ(「特に不安を感じたことはない」の回答者は含まず)、こちらは「地震」(44.8%)が断然のトップで、「ゲリラ豪雨」(15.5%)が2位、前問1位の「台風」(14.7%)は3位という結果になりました。



不安を感じている災害(複数回答/単位:%) ※上位10項目



最も不安に感じている災害トップ5(単数回答/単位:%)

	全体(N=1338)	東京圏(N=445)	中京圏(N=447)	大阪圏(N=446)
1位	地震 44.8	地震 48.3	地震 42.7	地震 43.5
2位	ゲリラ豪雨 15.5	ゲリラ豪雨 15.3	台風 16.6	ゲリラ豪雨 20.0
3位	台風 14.7	台風 11.5	ゲリラ豪雨 11.2	台風 16.1
4位	津波 5.5	津波 5.4	津波 6.3	津波 4.9
5位	河川の氾濫による浸水 3.3	水不足 3.6	河川の氾濫による浸水 4.5	河川の氾濫による浸水 3.1

沖大幹先生による解説 ~Oki's View~ ④

【水と災害】

災害は地震に限らないのに「防災の日」には地震に対する避難訓練をする組織が多いように、「最も不安に感じる災害」をひとつだけあげるとするとやはり地震が半数近くで断然の1位ではあるが、「不安を感じている災害」として、地震を2位に抑えて台風が1位、以下ゲリラ豪雨が3位、突風竜巻が4位、水不足が5位、そして雨による浸水6位と気象・水象関連災害が続くのは興味深い。

台風が1位となった大きな理由として、昨年2016年には8月に4個もの台風が上陸し、北海道に年間3個、東北地方太平洋側から上陸1個と異例の台風経路が話題となったことがあげられるだろう。

地域別には大阪や名古屋で台風への不安が高いが、東京では低い。これは、室戸台風やジェーン台風で大きな被害を受けた大阪や、伊勢湾台風が襲った名古屋では台風に対する防災教育が今も続けられているのに対して、東京は関東大震災の経験が主に語り継がれているからかもしれない。

統計期間をどう設定するかにもよるが、災害による死者数では地震、津波、高潮、河川の氾濫や土砂災害、それらをもたらす台風による被害が多く、本調査の「最も不安に感じる災害」においても、それらの災害はほぼ上位に入っている。ただ、その中に「ゲリラ豪雨」が入っているのがやや不思議である。「集中豪雨」と同じく「ゲリラ豪雨」はマスコミによって生み出され広まった言葉であり、厳密な学術的あるいは行政的な定義はない。集中豪雨とゲリラ豪雨がほぼ同じ意味に使われる場合もあるので、今回の回答でも「集中豪雨」を想定して「ゲリラ豪雨」と答えた方も多かったのかもしれないが、「集中豪雨」は局所的な被害をもたらすような継続的で激しい梅雨末期の大雨等を指すことが多いのに対し、「ゲリラ豪雨」は夕立の特に激しいものを指す場合が多い。

広島に深刻な土砂災害をもたらした平成26年8月豪雨や、鬼怒川の破堤など大規模な被害をもたらした平成27年9月関東・東北豪雨はどちらも組織的な豪雨が広範囲に継続しており、集中豪雨ではあるがゲリラ豪雨ではない。もちろん、ゲリラ豪雨でも平成11年6月29日福岡での豪雨災害のように、JR博多駅前御笠川(みかさかわ)が氾濫して地下室への浸水により人命が失われる場合もあるが、通常は極めて短時間の浸水やマンホールからの逆流などが生じるだけでゲリラ豪雨により生命を失う危険性は低い。

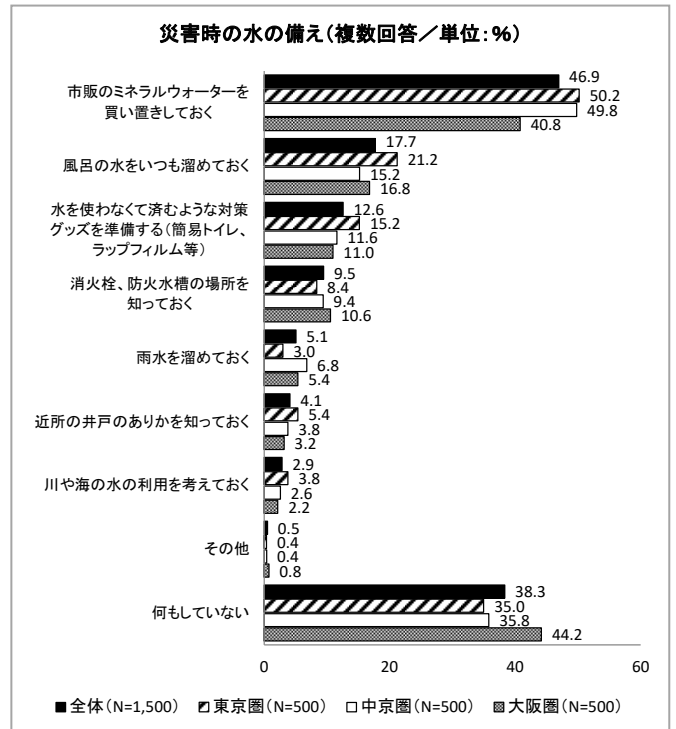
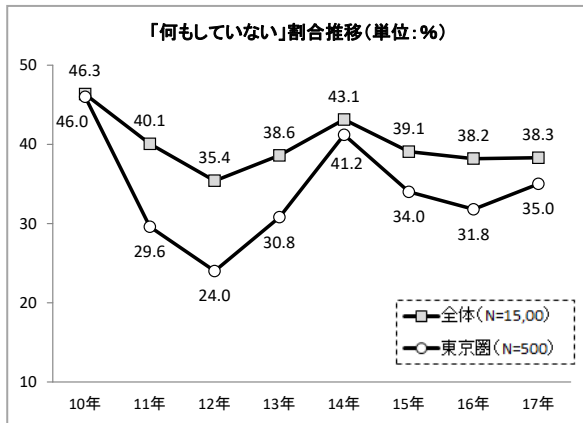
それでもゲリラ豪雨に対して台風と同様に「最も不安」を感じる人が多いのはなぜだろうか。単に「ゲリラ」という語感のせいかもしれないが、あるいは、首都圏を中心として「ゲリラ豪雨」が報道される機会が多く、遭遇する確率が高いと感じているからかもしれない。そういう意味では、以前はなかなか映像で目にすることが少なかった突風や竜巻も、スマートフォンの普及により、誰でもどこでもビデオ映像を撮影可能となり、記録に撮られて放映される機会が増えたため、不安を感じる人が増えているのだと想像される。

この調査は本年7月の九州北部豪雨よりも前の6月に行われており、今なら「河川の氾濫に対する浸水」への不安を訴える人がもっと多いのではないだろうか。いずれにせよ、怖がって終わらせるのではなく、不安を払拭すべく、日ごろの備えを万全にする行動に結びつけるのが大事である。

## Q.災害時に対する水の備えは？（7択＋その他＋何もしていない）

◇「ミネラルウォーターを買い置く」が昨年同様1位。東京圏の「何もしていない」人は増加

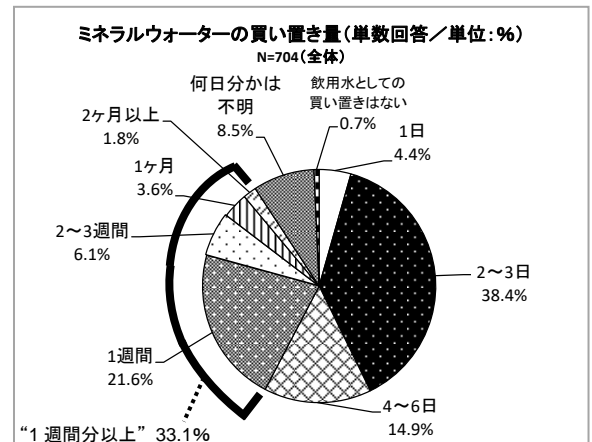
「災害時に対する普段の水の備え」は、昨年同様1位は「ミネラルウォーターを買い置きしておく」(46.9%)だったものの、昨年(48.9%)より2ポイント減少しました。また、約4割の人が「何もしていない」という状況も、昨年から変わりませんでした。東京圏では2014年以降、「何もしていない」人の割合が、2014年41.2%、2015年34.0%、2016年31.8%と減少していましたが、今年は35.0%と増加に転じました。



## Q.ミネラルウォーターの買い置き量は？（9択）

◇昨年同様、最も多いのが「2～3日」分、「1週間」分以上が約3割

上記「災害時に対する水の備え」の設問で「ミネラルウォーターを買い置く」を選択した回答者を対象に、実際の買い置き量(飲用として)を尋ねたところ、1位は「2～3日」(38.4%)、「1週間」(21.6%)が2位、「4～6日」(14.9%)が3位で、「2～3日」以上の期間を回答した人の合計は86.4%、「1週間」以上を回答した人は33.1%となりました。それぞれの項目について僅かな数値変動はあったものの、傾向としては昨年と同様でした。



### 沖大幹先生による解説 ～Okī's View～ ⑤

#### 【水の備え】

ミネラルウォーターの買い置きをしている人の中で、行政のガイドラインに沿って3日分～1週間分の水を確保している人が8割を超えるのは頼もしい。少し気になるのは、全体の2%にも満たないごく少数ではあるが2ヶ月以上と答えた人がいる点である。家族2人だとしても1日分が2Lのペットボトルで3本。2ヶ月分だと180本で、6本パックの箱で30箱である。古い方から使って定期的に補充しているのだとしても、30箱のペットボトルはそれなりに場所を取る。積み上げていたら、それこそ地震の際に崩れないか心配だ。場所に余裕のある一戸建ての人限定かと思ったら、集合住宅でも2ヶ月分以上の水を貯えている人がいる。高層階で「いざという時にエレベーターが止まったら運ぶのが大変だから」と心配しているのだろうか。

災害に対する備えは自助努力が基本で、いざとなったら行政や他人がなんとかしてくれると、あてにするのはお気楽すぎるし、社会の迷惑でもある。いざという時でも、2ヶ月分の水を蓄えている方に頼らずに済むように、自宅の備蓄を見直してみてもいいだろうか。

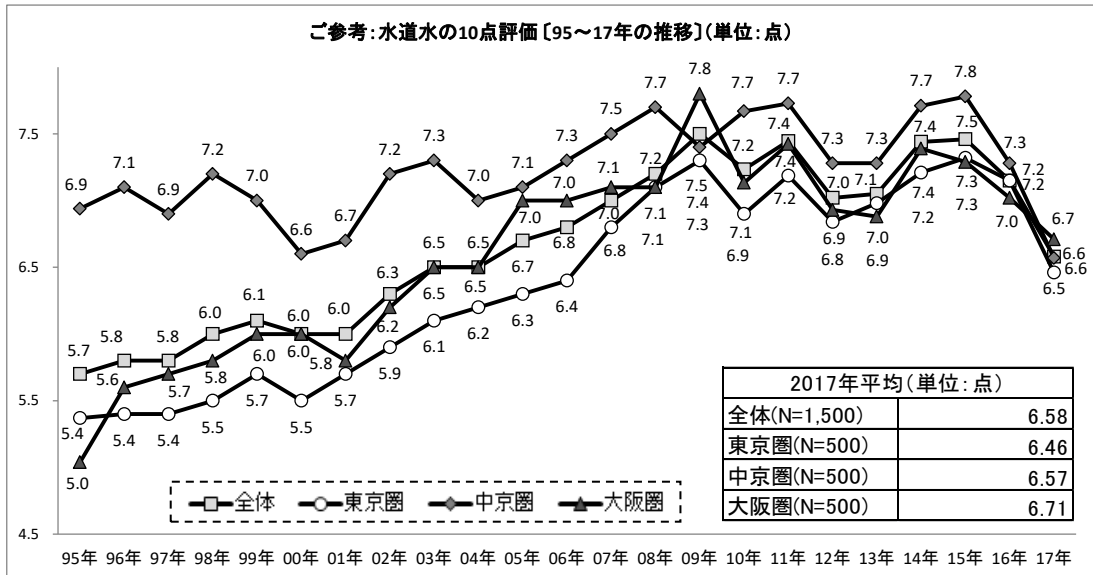
## 水道水に関する意識

### Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

#### ◇全体の平均が、7点台を大幅に割り込み6.58点に

昨年大きく低下した水道水の10点満点評価。今年の点数はどうだったのでしょうか。

全体の平均は、昨年(7.15点)から0.57ポイント減の6.58点と昨年に続き低下し、7点台を大幅に割り込む結果となりました。居住地別では、東京圏が0.69ポイント減の6.46点、中京圏が0.71ポイント減の6.57点、大阪圏が0.31ポイント減の6.71点となり、すべてのエリアで7点を割り込みました。なお今回、3エリアの中で平均得点が最も高かったのは大阪圏で、これは2009年以来2度目となります。

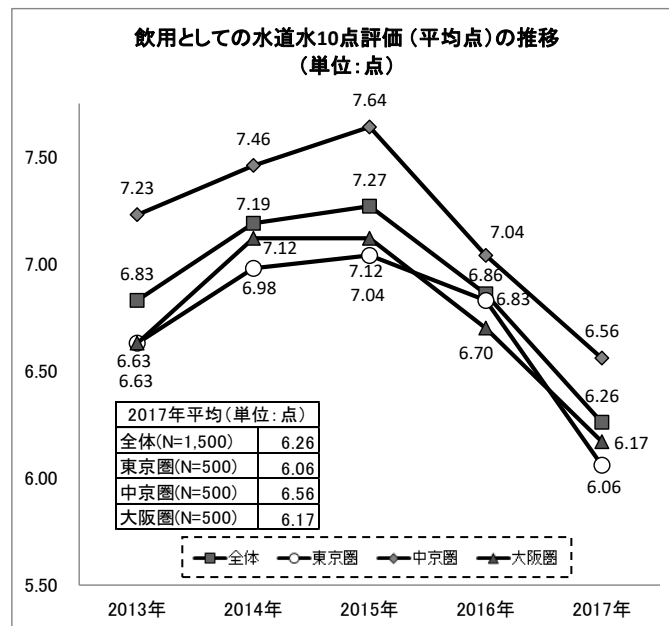


対象エリア：1995年…東京都、大阪府、愛知県、1996～2014年…東京圏(1都3県)、大阪圏(2府1県)、中京圏(3県)  
有効回答数：1995～2009年…443～553、2010～2017年…1,500

### Q.水道水を飲用水として10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

#### ◇全体の平均が、大幅低下で6.26点

飲用目的に限定した場合の水水道水評価についても、全体の平均が昨年(6.86点)から0.6ポイント減の6.26点、東京圏が0.77ポイント減の6.06点、中京圏が0.48ポイント減の6.56点、大阪圏が0.53ポイント減の6.17点と、上記の全般的な水道水への評価と同様、昨年に続き点数を大きく下げました。

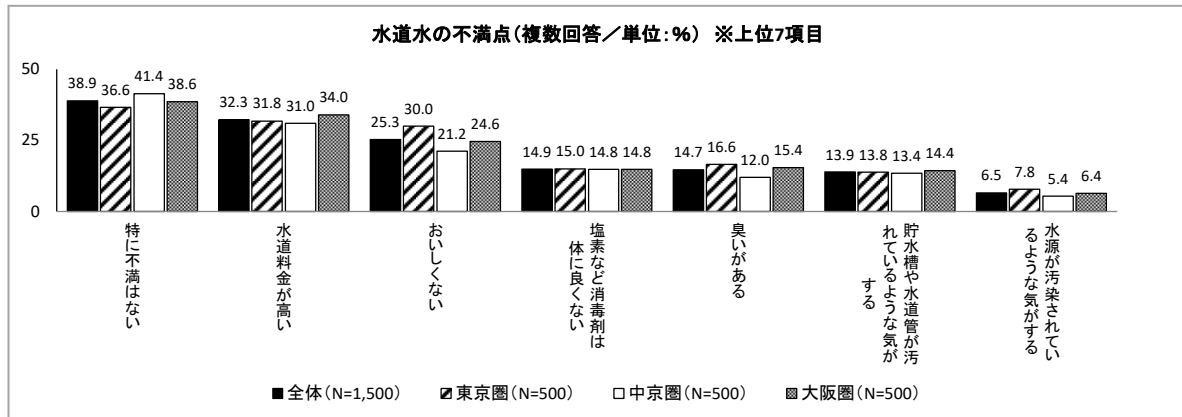


## Q.水道水について不満を感じていることは？（8択＋その他＋特に不満はない）

◇相変わらず「不満なし」が一番多いが、具体的な不満点の1位は「水道料金」

前述のとおり、水道水への評価得点が大きく低下する中、水道水に対して不満を感じていることを改めて聞くと、約4割(38.9%)の人が、「特に不満はない」と回答しました。一方、全体の約3人に1人(32.3%)が「水道料金が高い」、4人に1人(25.3%)が「おいしくない」ことを不満として挙げました。

なお、居住地別において、中京圏では「特に不満はない」、大阪圏では「水道料金が高い」の数値が他のエリアに比べて若干高いなどの傾向は、昨年と同様でした。



### 沖大幹先生による解説 ~Oki's View~ ⑥

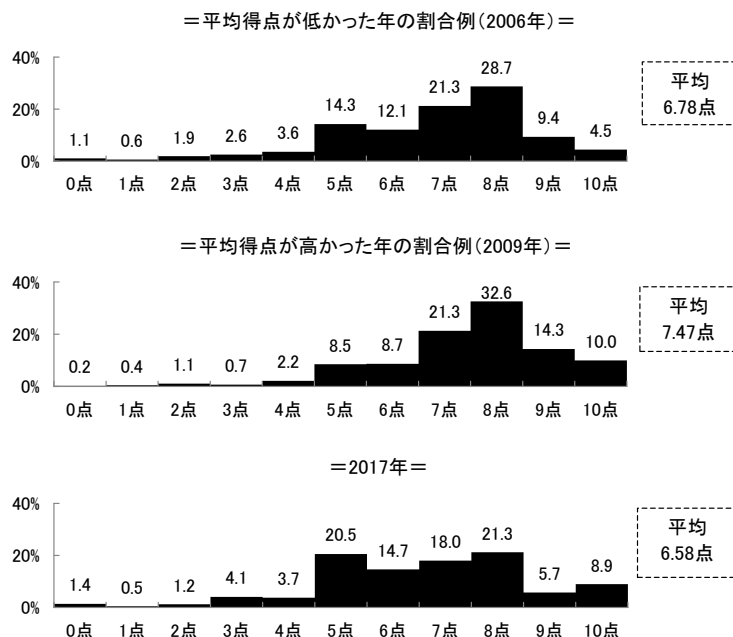
#### 【水道水への評価】

水道水への評価が上がらない。2009年くらいまでは徐々に上昇していたところ、その後は横ばいで、今回は減少傾向に入った様にも見える(11頁・上図参照)。

詳細な分析によると、通常8点にピークがあるところ、平均点が悪くなると5点をつける人が増えてもうひとつのピークが形成される。すなわち、合格点として8点をつける人が増えると平均点があがるところ、良くも悪くもないと5点をつける人が増えて、結果として平均点が長期低下傾向になっているようなのである(下図参照)。

水道関係者に聞いてみても、特段浄水過程に変化はなく、味やサービスが大きく変化していることはないようだ。ただ、日本経済が長期的にデフレ傾向で他の物価が下がっているところ、多くの事業者で水道料金には変化がないため、相対的に水道料金を高く感じるようになり、結果として「水道料金が低い」という不満につながっている可能性はある。電気の自由化で他の公共料金が低下傾向であることとの対比もあるだろう。

また、集合住宅の貯水槽や建物内の管路の汚れがたびたび報道されると、それだけで水道水はおいしくないと思ってしまうたり、実際に管理が悪くて味がわるくなってしまっていたりするということもあるのかもしれない。



## 沖大幹先生プロフィール

沖 大幹(おき たいかん) 東京大学 総長特別参与・生産技術研究所教授  
「ミツカン水の文化センター」アドバイザー

1964 年東京生まれ。1993 年博士(工学、東京大学)、1994 年気象予報士。1989 年東京大学助手、1995 年同講師等を経て 2006 年より現職。2016 年より国連大学上級副学長、国際連合事務次長補を兼務。専門は水文学(すいもんがく)で、地球規模の水循環と世界の水資源に関する研究。書籍に『水の未来』(岩波新書、2016 年)、『水危機 ほんとうの話』(新潮選書、2012 年)など。生態学琵琶湖賞、日経地球環境技術賞、日本学士院学術奨励賞など表彰多数。水文学部門で日本人初のアメリカ地球物理学連合(AGU)フェロー(2014 年)。



### 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年(文化元年)の創業以来、食酢の醸造を社業の中心としてきました。食酢の醸造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものがありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。センターでは研究活動、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、市民参加型イベント「発見！水の文化」の実施など、様々な活動を行っています。

「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業や、一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用頂くことを目的としています。